

キヤノン株式会社

2023年第3四半期 決算説明会

2023年10月26日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■ 2023年3Q実績	P 2
■ 2023年最新見通し	P 3
■ ビジネスユニット別詳細 (2023年3Q実績/2023年最新見通し)	P 4～10
■ 財務状況	P 11～12
■ サステナビリティへの取り組み	P 13
■ グローバル優良企業グループ構想PhaseVI	P 14
■ 参考資料	P 15～21

2023年 3Q実績のポイント

- 中国をはじめとする各地域の需要軟化、競争激化により計画未達
- 新規事業成長と円安により、11四半期連続の増収、2007年以来の1兆円超え
- 数量減、経費の増加をコストダウンと為替でカバーし、増益を達成

(億円)	3Q			3Q累計		
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年
売上高	10,252	9,961	+2.9%	30,173	28,742	+5.0%
売上総利益 (売上総利益率)	4,821 47.0%	4,510 45.3%	+6.9%	14,208 47.1%	13,095 45.6%	+8.5%
経費 (経費率)	3,995 38.9%	3,696 37.1%		11,614 38.5%	10,534 36.7%	
営業利益 (営業利益率)	826 8.1%	814 8.2%	+1.5%	2,594 8.6%	2,561 8.9%	+1.3%
税引前利益	873	791	+10.4%	2,760	2,320	+19.0%
純利益 (純利益率)	621 6.1%	541 5.4%	+14.8%	1,839 6.1%	1,591 5.5%	+15.6%
USD	144.76	138.40		138.27	128.26	
EUR	157.32	139.40		149.59	136.07	

2

第3四半期の実績です。

第3四半期の世界経済は、中国経済が不動産不況の影響で想定以上に悪化した事に加えて、世界的な金融引き締め継続により、各地域において上期に比べ需要の弱含みがありました。

当社関連製品の市場も、市況悪化の影響を受け、プリンターをはじめとする需要軟化や競争激化が見られ計画には達しませんでした。ネットワークカメラやメディカル等の新規事業の成長と為替の追い風もあり、11四半期連続の増収を達成しました。

営業利益については、プリンターやカメラで販売投資の増加や、センサー新工場稼働による償却費の増加がありましたが、コストダウンや円安の効果で増益となりました。

その結果、売上高は対前年2.9%増の1兆252億円、営業利益は1.5%増の826億円、純利益は14.8%増の621億円となりました。売上高は1兆円を超え、第3四半期としては2007年に次ぐ16年振りの大きさとなりました。

また第3四半期累計の売上高は、対前年5.0%増の3兆173億円、営業利益は1.3%増の2,594億円、純利益は15.6%増の1,839億円となり、増収増益を維持しております。

2023年 見通しのポイントと全社PL

- 需要軟化と価格競争再開により売上見通しは引き下げるが、商戦期の4Qは1兆2,000億円の売上を計画
- 営業利益は引き続き、2008年以来の4,000億円台を目指す

(億円)	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回	
売上高	42,200	40,314	+4.7%	43,630	-1,430	
売上総利益 (売上総利益率)	19,980 47.3%	18,278 45.3%	+9.3%	20,130 46.1%	-150	
経費 (経費率)	15,980 37.8%	14,744 36.5%		16,130 36.9%	+150	
営業利益 (営業利益率)	4,000 9.5%	3,534 8.8%	+13.2%	4,000 9.2%	0	
税引前利益	4,250	3,524	+20.6%	4,250	0	
純利益 (純利益率)	2,920 6.9%	2,440 6.1%	+19.7%	2,920 6.7%	0	
USD	140.11	131.66		135.05		2023年4Qの為替影響額 (1円の変動による影響)
EUR	151.13	138.42		145.42		売上 営業利益
						USD 36億円 11億円
						EUR 19億円 9億円

3

通期の業績見通しです。

前提となる第4四半期の為替レートは、1ドル 145円、1ユーロ 155円と前回見通しからドル・ユーロ共に10円円安に見直しました。

世界経済については、引き続き中国経済を中心に回復は鈍く、当社製品の市場は弱含んだまま推移すると見ております。

需要の軟化と、供給量が回復している状況のもとで一部の製品では価格競争が再開していることを反映し、年間の売上見通しを引き下げますが、インダストリアルやメディカル、オフィス複合機は、既に多くの受注を獲得しており、それらを確実に売上につなげていきます。商戦期を迎えるカメラやインクジェットプリンターについては拡充してきた製品ラインアップのもとで、販売促進費用も活用しながら売上を確保し、第4四半期に1兆2,000億円を超える売上を目指してまいります。

利益については、売上増加により売上総利益額が伸びることに加え、部品代や物流費の価格低下と為替の好転により、第4四半期の営業利益率は11.7%まで上昇し、年間の見通しは維持します。

以上を踏まえ、売上高は対前年4.7%増の4兆2,200億円、営業利益は13.2%増の4,000億円、純利益は19.7%増の2,920億円とします。

引き続き、2008年以来15年ぶりに営業利益を4,000億円台にのせ、3期連続の増収増益を目指してまいります。

- 3Qも上期に引き続き、販売は堅調
- 4Qも販売台数を伸ばすことで、マーケットシェア拡大

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,405	2,286	+5.2%	9,844	8,889	+10.8%	9,843	+1
プロシューマー	2,313	2,332	-0.8%	9,614	10,213	-5.9%	10,298	-684
プロダクション	986	930	+6.0%	3,970	3,624	+9.5%	3,849	+121
売上高計	5,704	5,548	+2.8%	23,428	22,726	+3.1%	23,990	-562
営業利益	460	410	+12.3%	2,414	2,124	+13.7%	2,418	-4
%	8.1%	7.4%		10.3%	9.3%		10.1%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+0.7%	+6.1%
プロシューマー	-4.7%	-9.1%
プロダクション	-1.3%	+2.5%
合計	-1.9%	-1.3%

■ 対前年台数伸び率

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
オフィス複合機	-13%	+7%



『imageRUNNER ADVANCE DX C3900』シリーズ

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

オフィス複合機は、画質や印刷スピード、耐久性に優れたオフィスにおけるメインのプリンティング機器としてのニーズは変わることなく、経済の減速がみられる中国を除けば、需要は安定しています。

第3四半期は、中国市況の悪化と、欧州における大型商談の販売遅延がありましたが、国内のドキュメントソリューション売上やサービス、消耗品の拡販に支えられ、増収となりました。

第4四半期は、中国での需要低迷は続く見通しですが、欧州を中心に多くの大型商談を獲得出来ていることに加え、米州でのディーラーを通じた間接販売では低速機やA4機の販売が好調であり、販売台数は前年を上回る見込みです。上期の20%以上の伸びとあわせて、年間では引き続き市場を上回る対前年プラス7%の販売台数を計画しています。マーケットシェアを上昇させて顧客先での稼働台数を増やし、サービス収入増につながる戦略により、当社が目指す収益性の向上を確実に進めていきます。

- 市況が想定より弱く、年間見通しを下方修正
- 4Qは本体売上に注力し、来年の消耗品販売につなげる

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,405	2,286	+5.2%	9,844	8,889	+10.8%	9,843	+1
プロシューマー	2,313	2,332	-0.8%	9,614	10,213	-5.9%	10,298	-684
プロダクション	986	930	+6.0%	3,970	3,624	+9.5%	3,849	+121
売上高計	5,704	5,548	+2.8%	23,428	22,726	+3.1%	23,990	-562
営業利益	460	410	+12.3%	2,414	2,124	+13.7%	2,418	-4
%	8.1%	7.4%		10.3%	9.3%		10.1%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+0.7%	+6.1%
プロシューマー	-4.7%	-9.1%
プロダクション	-1.3%	+2.5%
合計	-1.9%	-1.3%

■ 対前年台数伸び率

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
LP	-23%	-27%
インクジェット	0%	-7%



ビジネスインクジェットプリンター
大容量インクモデル
『GX5530』シリーズ

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

5

プリンターの市況は、中国の景気後退や欧米の金融政策の影響を受け想定していたよりも弱く推移しており、売上を維持するために価格下げを行う競争も出てきています。

当社においてもレーザープリンターは、中国では需要が軟化し、その他の地域でも市況の改善が見られません。加えて金利も上昇する中、ユーザーやディーラーの在庫を絞る動きも継続しており、当社の第3四半期の売上は、第2四半期と同水準にとどまりました。

売上の回復にはもう少し時間を要すると判断し、年間の売上見通しを引き下げましたが、消耗品については第4四半期には増加してくる見込みです。

インクジェットプリンターについても、第3四半期の販売台数は計画を下回り、年間見通しについても想定市場規模の縮小を受け、下方修正しました。ただし、消耗品売上は前年を上回る水準を維持しています。

商戦期である第4四半期は、昨年未から7モデルを追加しラインアップを大幅に強化してきた大容量モデルの販売台数を伸ばすとともに、カートリッジモデルについては販売促進費も活用しながら需要を喚起し、来年以降の消耗品売上につなげていきます。

プリンティング（プロダクション）

- サービス収入の増加と円安影響で10四半期連続の増収
- 4Qは四半期では最高となる1,100億円以上の売上を目指す

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
オフィス	2,405	2,286	+5.2%	9,844	8,889	+10.8%	9,843	+1
プロシューマー	2,313	2,332	-0.8%	9,614	10,213	-5.9%	10,298	-684
プロダクション	986	930	+6.0%	3,970	3,624	+9.5%	3,849	+121
売上高計	5,704	5,548	+2.8%	23,428	22,726	+3.1%	23,990	-562
営業利益	460	410	+12.3%	2,414	2,124	+13.7%	2,418	-4
%	8.1%	7.4%		10.3%	9.3%		10.1%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
オフィス	+0.7%	+6.1%
プロシューマー	-4.7%	-9.1%
プロダクション	-1.3%	+2.5%
合計	-1.9%	-1.3%



グラフィックアーツ向け大判プリンター
『Colorado Mシリーズ』

※2023年より、「その他及び全社」及び「プリンティング」オフィスに含めていたビジネスの一部を「プリンティング」プロシューマーに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

6

デジタル商業印刷の市場は、高インフレ・高金利により投資を控えている印刷会社の中にも、投資再開を検討する動きが見られます。

当社の第3四半期は、高速カットシート機の設置が予定通りに進まず売上は計画に達しませんでした。顧客先で稼働している台数の増加によりサービス収入が伸びており、円安影響もあって10四半期連続の増収となりました。

第4四半期の売上計画達成に向けて、大型印刷機の受注は積み上がっており、3月に発売したグラフィックアーツ向け大判プリンターのColorado Mも好評を博し、取り扱いディーラーも確実に増加しています。四半期ベースでの最高記録であった昨年をさらに上回り、年間では4,000億円に迫る売上を目指していきます。

イメージング（カメラ）

Canon

- ミラーレスカメラの新製品が牽引し、3Qも売上を伸ばす
- ラインアップ拡充した本体・レンズの相乗効果でミラーレスのシェアアップ

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
カメラ	1,387	1,321	+4.9%	5,515	5,097	+8.2%	5,691	-176
ネットワークカメラ他	820	708	+15.8%	3,495	2,938	+19.0%	3,459	+36
売上高計	2,207	2,029	+8.7%	9,010	8,035	+12.1%	9,150	-140
営業利益 %	402 18.2%	366 18.0%	+9.7%	1,562 17.3%	1,266 15.8%	+23.4%	1,518 16.6%	+44

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
カメラ	-0.2%	+2.7%
ネットワークカメラ他	+8.8%	+12.0%
合計	+2.9%	+6.1%

■ 対前年台数伸び率 (単位：万台)

	2023年3Q実績		2023年最新見通し	
	台数	伸び率	台数	伸び率
レンズ交換式	74	+1%	290	+1%



EOS Rシリーズ初のエントリーモデル
『EOS R50』(左)と
『EOS R100』

レンズ交換式カメラの市場は、各社の新製品が需要を喚起して底堅く推移しており、今年は前年を僅かに上回る585万台の規模を想定しています。

当社の第3四半期は、昨年末に発売した「EOS R6 Mark II」や上期発売のEOS Rシリーズ初のエントリーモデル「EOS R50」「EOS R100」などの新製品が順調に売上を伸ばし、全体では昨年とほぼ同じ販売台数となりました。

当社は、カメラユーザーの多様なニーズに応えるため、また、新規のユーザーを獲得するために、フルサイズからエントリーまでミラーレス本体のラインアップを拡充してきました。交換レンズについても今年すでに5本を追加し、現時点で38本まで増やしてきたことで、本体とレンズの相乗効果でミラーレスのシェアを順調に伸ばしております。

市場全体として需要に対し十分な供給を行える状態に回復したことで、各社とも販売投資を徐々に増やしておりますので、商戦期である第4四半期は適切なプロモーションを打ちながら販売台数を伸ばし、年間で290万台を目指してまいります。

イメージング（ネットワークカメラ他）

Canon

- 製品ラインアップ拡充や販売体制の強化により本体の売上を伸ばす
- 映像を管理・解析するシステムも開発・販売を強化し、成長継続

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
カメラ	1,387	1,321	+4.9%	5,515	5,097	+8.2%	5,691	-176
ネットワークカメラ他	820	708	+15.8%	3,495	2,938	+19.0%	3,459	+36
売上高計	2,207	2,029	+8.7%	9,010	8,035	+12.1%	9,150	-140
営業利益	402	366	+9.7%	1,562	1,266	+23.4%	1,518	+44
%	18.2%	18.0%		17.3%	15.8%		16.6%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
カメラ	-0.2%	+2.7%
ネットワークカメラ他	+8.8%	+12.0%
合計	+2.9%	+6.1%

 milestone

サーバー型映像管理



XProtect録画サーバー

 arcules

クラウド型映像管理



 BriefCam

映像要約
映像解析



映像を管理・解析するグループ会社3社

8

ネットワークカメラ市場は、欧米を中心に引き続き堅調に推移しており、当社の第3四半期も2桁の増収となりました。

用途の中心である監視向けが販売台数をさらに伸ばしているのに加え、店舗における動線や顧客層把握などのマーケティング目的や、生産現場における要員配置や工程管理などへも用途が広がっています。

キヤノン本体とネットワークカメラ事業の中核を担うAXIS社、撮影した映像を管理・解析するシステムを提供するグループ会社3社は、最適なシステムを提供できるよう製品開発や販売で連携を強化しています。シナジー効果を発揮しながら、ネットワークカメラ全体では年間で20%以上の売上成長を目指していきます。

- 3Qは日本及び欧州で売上を伸ばし、6四半期連続の増収
- 4Qは高い受注残を確実に年内の売上につなげ、年間で3年連続となる最高業績の更新を目指す

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
売上高計	1,324	1,261	+5.0%	5,618	5,133	+9.4%	5,762	-144
営業利益	66	64	+3.2%	368	310	+18.7%	406	-38
%	5.0%	5.1%		6.6%	6.0%		7.0%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
合計	+1.3%	+5.9%



80列CT
『Aquilion Serve』



超音波診断装置
『Aplio me』

9

今年の画像診断装置市場は、金利や人件費上昇により装置の購入時期を先送りする医療機関があるものの、コロナ禍で控えられていた大型装置を中心として回復傾向にあり、2%程度の成長を見込んでいます。

当社においても、米国などで商談が延伸する傾向にあり、また中国市場では認可取得遅れによる影響を受けましたが、日本及び欧州では各装置が順調に売上を伸ばし、第3四半期は6四半期連続の増収となりました。

第4四半期ではさらに販売数量を伸ばし、昨年を大きく上回る売上を計画しています。第3四半期からの繰り越しも含めて、CT新製品など大型装置の受注済み案件を多くかかえており、顧客先への設置を確実に進めていきます。

また、超音波診断装置についても、この10月に高機能と軽量化を両立した新製品を国内で販売開始するなど、ラインアップ強化を図っています。これらの製品の売上を積み上げ、年間で3年連続となる最高業績更新を目指していきます。

- 半導体露光装置は、年内に設置を確実に進め189台の販売を計画
- パネル向け装置は、2024年後半以降に向けて準備を進める

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
光学機器	531	649	-18.2%	2,150	2,404	-10.6%	2,294	-144
産業機器	257	221	+16.4%	1,002	888	+12.9%	1,235	-233
売上高計	788	870	-9.4%	3,152	3,292	-4.3%	3,529	-377
営業利益	158	169	-6.6%	594	580	+2.4%	608	-14
%	20.0%	19.4%		18.8%	17.6%		17.2%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し
光学機器	-18.6%	-11.2%
産業機器	+15.6%	+12.1%
合計	-9.9%	-4.9%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2023年 3Q実績	2022年 3Q実績	2023年 最新見通し	2022年 実績
半導体	50	50	189	176
FPD	1	15	28	51



後工程向け半導体露光装置
『FPA-5520iV』

10-1

半導体デバイス市場は、メモリの低迷により、今年は一時的に縮小しますが、来年以降の成長を見据えたメーカーの投資は継続しており、経済安全保障の点から自国生産を進める動きも加わり、半導体露光装置市場は拡大を続けています。

当社は、第3四半期において、好調であるパワーデバイス、センサー向けのほか、先端パッケージの後工程用装置が台数を伸ばしており、全体では第2四半期を8台上回る50台を販売しました。

一部の顧客で付帯工事遅延による来年への繰り越しが発生しましたが、第4四半期においては販売台数を68台まで伸ばし、年間では昨年を上回る189台の販売を計画しています。既に大半の装置は出荷しており、顧客先で効率よく設置を進めるための要員配分もすでに完了していますので、確実に年内売上につなげてまいります。

- 半導体露光装置は、年内に設置を確実に進め189台の販売を計画
- パネル向け装置は、2024年後半以降に向けて準備を進める

(億円)

	3Q			年間				
	2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
光学機器	531	649	-18.2%	2,150	2,404	-10.6%	2,294	-144
産業機器	257	221	+16.4%	1,002	888	+12.9%	1,235	-233
売上高計	788	870	-9.4%	3,152	3,292	-4.3%	3,529	-377
営業利益	158	169	-6.6%	594	580	+2.4%	608	-14
%	20.0%	19.4%		18.8%	17.6%		17.2%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2023年 3Q実績	2023年 最新見通し	
	光学機器	-18.6%	
産業機器	+15.6%	+12.1%	FPD
合計	-9.9%	-4.9%	

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2023年 3Q実績	2022年 3Q実績		2023年 最新見通し	2022年 実績
	光学機器	50		50	半導体
産業機器	1	15	FPD	28	51



後工程向け半導体露光装置
『FPA-5520iV』

10-2

ディスプレイ製造装置の市場については、パネル市況の低迷からメーカーの投資調整がしばらく続くと見えていますが、2024年後半以降、ノートPCやタブレットといったITパネルにおいて有機ELの採用が進み、需要の回復が期待できます。

当社のFPD露光装置は、パネルメーカーが生産開始時期を後ろ倒ししたため、5台の装置の検収が来年に繰り越し、年間28台の販売となりました。来年以降想定されるITパネル向け大型装置の需要増に備え、生産性を高めるなど、製品力をさらに強化し、顧客の期待に応えてまいります。

有機EL蒸着装置についても、一部顧客の投資計画に後ろ倒しがあったため、前回計画より年間見通しを引き下げましたが、昨年からは回復傾向であり2桁の増収を見込んでおります。ITパネル向けの新たな装置の開発・生産は進んでおり、スマートフォンパネル向け装置で培ってきた様々なノウハウと顧客からの信頼を活かし、新たな装置においても圧倒的なシェアの獲得を狙っていきます。

在庫の状況

- 9月末は為替影響と4Q拡販に向けた在庫積み増しで6月末から増加
- 4Qの売上拡大により年末に向けては大きく減少

(金額：億円)	2022年				2023年			
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	
プリンティング	金額	3,247	3,536	4,081	3,668	3,725	3,875	3,776
	日数	58	60	67	56	57	62	60
イメージング	金額	1,171	1,266	1,436	1,376	1,636	1,733	1,846
	日数	63	64	65	56	69	77	77
メディカル	金額	1,205	1,294	1,377	1,283	1,363	1,431	1,509
	日数	89	100	103	85	88	102	107
インダストリアル	金額	1,178	1,338	1,374	1,240	1,330	1,400	1,428
	日数	131	166	152	124	154	187	170
その他及び全社	金額	531	547	571	516	534	542	580
	日数							
合計	金額	7,332	7,981	8,839	8,083	8,588	8,981	9,139
	日数	73	78	81	69	74	82	82

11

9月末の在庫が6月末に比べ約160億円増加しましたが、主な原因は円安の進行によるものであり、それ以外の増加は、メディカルやインダストリアルなどで第4四半期の拡販に向けて商品在庫を積み増したことによります。

12月末の商品在庫水準は、第4四半期の売上拡大や減産対応により9月末から大きく減少する見通しです。

また部品と原材料についても発注削減を上期からかけており、第4四半期には購入の減少として効果が出てくる見込みです。

キャッシュフロー(年間)

- 計画は下回るものの、5,000億円と昨年以上の営業CFを見込む
- 2,570億円の成長投資と、安定的で積極的な株主還元を実施

(億円)	2023年 最新見通し	2023年 前回見通し	2022年 実績	2021年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	5,000	6,330	2,626	4,510
投資活動によるキャッシュフロー	-2,570	-2,570	-1,808	-2,072
フリーキャッシュフロー	2,430	3,760	818	2,438
財務活動によるキャッシュフロー	-2,580	-3,840	-1,468	-2,674
為替変動影響	179	39	257	173
現預金の純増減額	29	-41	-393	-63
現預金の期末残高	3,650	3,580	3,621	4,014
手元回転月数	1.0	0.9	1.0	1.3
設備投資	2,250	2,400	1,833	1,790
償却費	2,400	2,400	2,265	2,212

12

営業キャッシュフローについては、前回見通しと比べ、純利益は同額の2,920億円を計画しているものの、年間の売上見通しを引き下げたことに加え、売上が第3四半期から第4四半期にずれた事により、期末の在庫や売掛金が増加し、前回見通しから1,300億円少ない5,000億円となる見込みです。

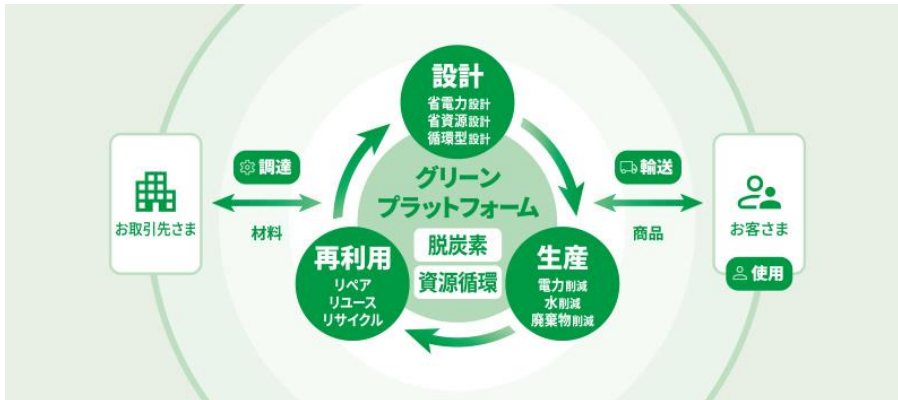
投資キャッシュフローは、センサーの新工場建設やメディカルの体外診断事業の成長加速のためのミナリス社買収などを行っており、引き続き昨年よりも約700億円多い2,570億円を計画しているため、フリーキャッシュフローも前回見通しから1,300億円少ない2,430億円を見込んでいます。

財務キャッシュフローは、安定的かつ積極的な株主還元方針の下で、今年度は自社株買いを1,000億円実施するとともに、配当予想を1株あたり140円まで引き上げ、2,580億円を見込んでおります。

以上の結果、12月末の現預金は3,650億円となる見通しです。今後も健全な現預金を確保しながら、適宜適切に株主還元を努めてまいります。

サステナビリティへの取り組み

- 「グリーンプラットフォーム」で、製品ライフサイクル全体で環境負荷低減を目指す



SBTiの基準に沿ったキヤノンのCO2排出量の削減目標

「スコープ1」「スコープ2」	42%削減
「スコープ3」	25%削減

13

当社は、ものづくり企業として、技術力で脱炭素・資源循環社会の実現に貢献していきたいと考えています。キヤノンはこれまで培ってきた環境分野における技術や知見を全社的な技術基盤「グリーンプラットフォーム」としてまとめており、事業の枠を越え、設計、生産、再利用の製品ライフサイクルの各ステージにおいてそれらを組み合わせることで、環境負荷の低減を目指しています。

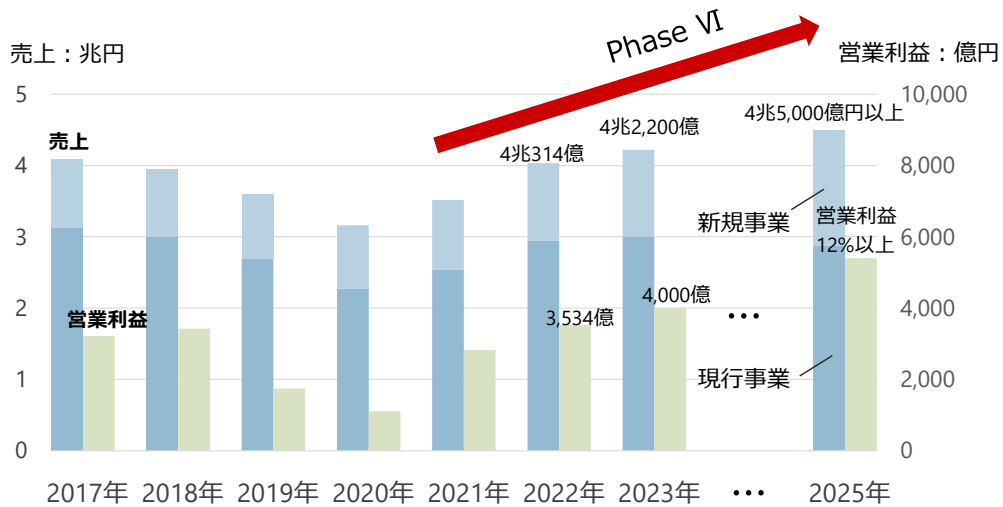
例えば、製品設計においては、独自開発のシミュレーション技術を駆使し、製品使用時の省電力、製品の小型化による省資源、リサイクル・リユースなどの再利用を実現してきています。

生産においては工場の電力消費状況を場所単位だけでなく、生産設備の動作単位まで細かく分解、可視化して分析するシステムを開発中であり、さらなる電力の削減に取り組んでいます。

当社は、科学根拠に基づくGHG排出削減目標の認定機関であるSBTiの基準に沿ったCO2排出量の目標として、2030年までに2022年比で「スコープ1」「スコープ2」では、42%削減、「スコープ3」では、25%削減を掲げています。「グリーンプラットフォーム」を活用し、取引先からの材料調達や顧客への商品輸送、さらに商品使用時を含めた製品ライフサイクル全体でCO2排出削減を進めてまいります。

グローバル優良企業グループ構想 Phase VI Canon

■ 3期連続の増収増益を果たし、2025年の業績目標達成に繋げる



今年（2023年）は第3四半期までの累計で、新規事業の売上成長と、現行事業の高い収益性により売上は15年ぶりに3兆円を超えるとともに、増益を達成しました。

市況の変化により見通しは引き下げましたが、第4四半期に高い売上目標を達成し、引き続き過去最高の2007年に次ぐ売上水準を目指すとともに、営業利益を4,000億円の大台に乗せる計画です。3年連続の増収増益を果たし、「グローバル優良企業グループ構想Phase6」の最終年である2025年の業績目標達成に向けて、弾みをつけてまいります。

參考資料

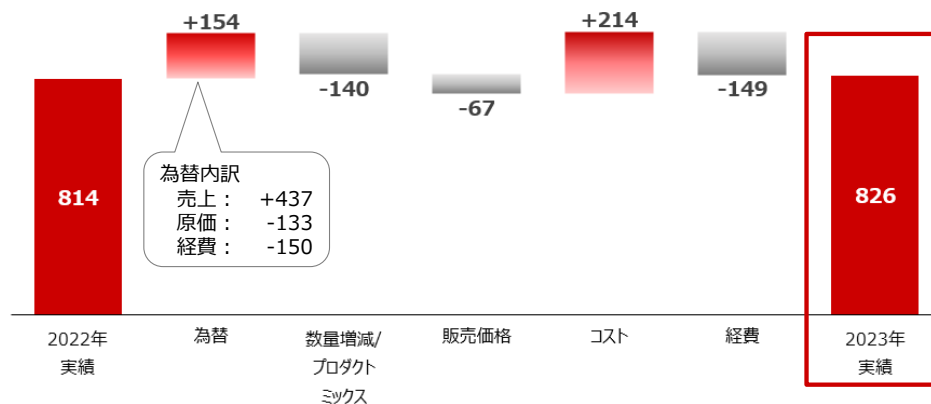
2023年 ビジネスユニット別PL(3Q)

(億円)		3Q			3Q累計		
		2023年 実績	2022年 実績	対前年	2023年 実績	2022年 実績	対前年
プリンティング	売上高	5,704	5,548	+2.8%	17,034	16,324	+4.3%
	営業利益 (%)	460 (8.1%)	410 (7.4%)	+12.3%	1,560 (9.2%)	1,605 (9.8%)	-2.9%
イメージング	売上高	2,207	2,029	+8.7%	6,323	5,610	+12.7%
	営業利益 (%)	402 (18.2%)	366 (18.0%)	+9.7%	1,119 (17.7%)	823 (14.7%)	+35.9%
メディカル	売上高	1,324	1,261	+5.0%	3,896	3,625	+7.5%
	営業利益 (%)	66 (5.0%)	64 (5.1%)	+3.2%	179 (4.6%)	211 (5.8%)	-14.8%
インダストリアル	売上高	788	870	-9.4%	2,158	2,338	-7.7%
	営業利益 (%)	158 (20.0%)	169 (19.4%)	-6.6%	353 (16.3%)	447 (19.1%)	-21.0%
その他及び全社	売上高	447	538	-16.8%	1,414	1,571	-10.0%
	営業利益	-255	-198	-	-600	-529	-
消去	売上高	-218	-285	-	-652	-726	-
	営業利益	-5	3	-	-17	4	-
連結合計	売上高	10,252	9,961	+2.9%	30,173	28,742	+5.0%
	営業利益 (%)	826 (8.1%)	814 (8.2%)	+1.5%	2,594 (8.6%)	2,561 (8.9%)	+1.3%

※2022年年間決算発表より従来「インダストリアルその他」に含まれていた露光装置と産業機器を「インダストリアル」として独立させ、その他の事業については全社費用と合算しております。加えて2023年より、「その他及び全社」に含めて開示していたビジネスの一部を「プリンティング」に移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

2023年 営業利益分析(3Q)対前年

(億円)



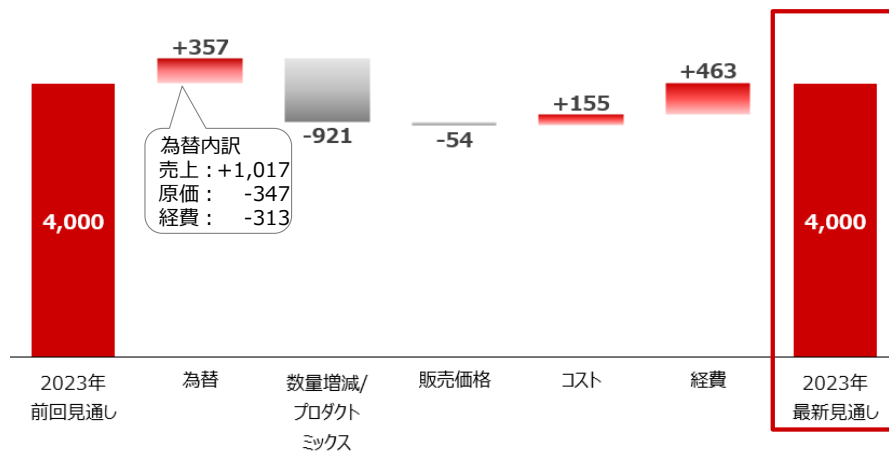
2023年 ビジネスユニット別PL(年間)

(億円)		2023年 最新見通し	2022年 実績	対前年	2023年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	23,428	22,726	+3.1%	23,990	-562
	営業利益 (%)	2,414 (10.3%)	2,124 (9.3%)	+13.7%	2,418 (10.1%)	-4
イメージング	売上高	9,010	8,035	+12.1%	9,150	-140
	営業利益 (%)	1,562 (17.3%)	1,266 (15.8%)	+23.4%	1,518 (16.6%)	+44
メディカル	売上高	5,618	5,133	+9.4%	5,762	-144
	営業利益 (%)	368 (6.6%)	310 (6.0%)	+18.7%	406 (7.0%)	-38
インダストリアル	売上高	3,152	3,292	-4.3%	3,529	-377
	営業利益 (%)	594 (18.8%)	580 (17.6%)	+2.4%	608 (17.2%)	-14
その他及び全社	売上高	1,943	2,123	-8.5%	2,248	-305
	営業利益	-925	-738	-	-943	+18
消去	売上高	-951	-995	-	-1,049	+98
	営業利益	-13	-8	-	-7	-6
連結合計	売上高	42,200	40,314	+4.7%	43,630	-1,430
	営業利益 (%)	4,000 (9.5%)	3,534 (8.8%)	+13.2%	4,000 (9.2%)	0

※2022年年間決算発表より従来「インダストリアルその他」に含まれていた露光装置と産業機器を「インダストリアル」として独立させ、その他の事業については全社費用と合算しております。加えて2023年より、「その他及び全社」に含めて開示していたビジネスの一部を「プリンティング」に移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。

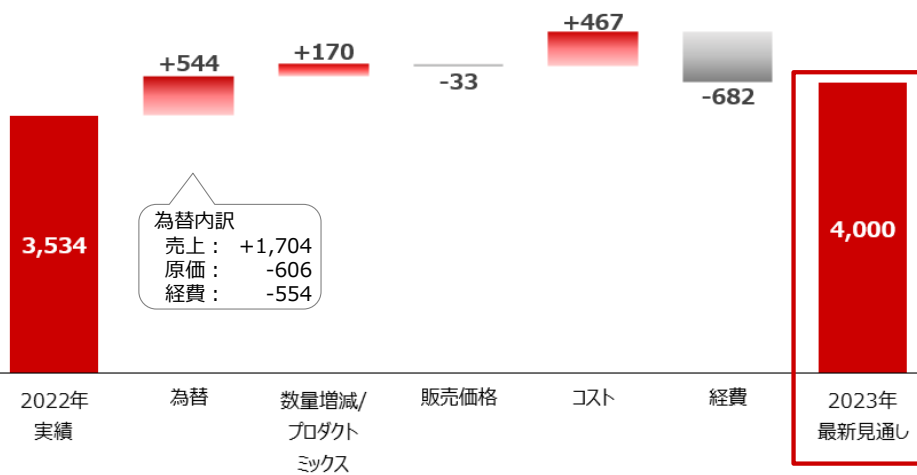
2023年 営業利益分析(年間)対前回

(億円)



2023年 営業利益分析(年間)対前年

(億円)



■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2023年		2022年	
			3Q 実績	年間 最新見通し	3Q 実績	年間 実績
オフィス複合機	円貨	ハード	-4%	+12%	+75%	+30%
		ノンハード	+7%	+7%	+14%	+10%
	LC	ハード	-9%	+7%	+54%	+17%
		ノンハード	+2%	+2%	+3%	+2%
LP	円貨	ハード	-12%	-12%	+53%	+34%
		ノンハード	+2%	-5%	-8%	+6%
	LC	ハード	-16%	-16%	+32%	+19%
		ノンハード	0%	-6%	-18%	-2%
インクジェット	円貨	ハード	-1%	-10%	+33%	+34%
		ノンハード	+10%	+4%	-18%	-7%
	LC	ハード	-6%	-14%	+17%	+21%
		ノンハード	+3%	-1%	-27%	-15%
プロダクション	円貨	ハード	+3%	+10%	+46%	+30%
		ノンハード	+8%	+9%	+29%	+23%
	LC	ハード	-4%	+4%	+25%	+15%
		ノンハード	0%	+2%	+12%	+10%

※2023年より、「その他及び全社」及び「オフィス」オフィス複合機に含めていたビジネスの一部を「プロシューマー」インクジェットに移しており、2023年の伸び率は前年を組み替えた前提で表示しています。

■ オフィス/プロシューマー 製品別売上高

(億円)

		2023年		2022年	
		3Q 実績	年間 最新見通し	3Q 実績	年間 実績
オフィス	オフィス複合機	1,515	6,207	1,497	5,678
	オフィスその他	890	3,637	789	3,211
		2,405	9,844	2,286	8,889
プロシューマー	LP	1,458	6,000	1,515	6,512
	インクジェット	855	3,614	817	3,701
		2,313	9,614	2,332	10,213

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

		2023年		2022年	
		3Q 実績	年間 最新見通し	3Q 実績	年間 実績
	KrF	21	57	11	51
	i線	29	132	39	125
	合計	50	189	50	176

※2023年より、「その他及び全社」及び「オフィス」オフィス複合機に含めていたビジネスの一部を「プロシューマー」インクジェットに移しており、2022年実績を遡及して組み替えています。